

摂津地域の石庖丁

— 近畿における石庖丁生産・流通の再検討 (VII) —

仲原 知之

1. はじめに

近畿の石庖丁⁽¹⁾は大半が、二大石材というべき粘板岩系石材、結晶片岩系石材によって製作されている。そのなかで摂津地域においては、二大石材が産出しないながらもこれらの石材で製作された石庖丁が多く出土している(酒井 1974)。一方で地元産の白色系石材を用いた石庖丁も出土しており、石庖丁の生産と流通を検討するうえで重要な地域といえる⁽²⁾。そこで、摂津地域を中心に石庖丁の生産と流通について、これまでの先行研究を整理したうえで若干の考察を加えたい。ただし、厳密に旧摂津国の遺跡だけを取り上げるのではなく、隣接する地域の遺跡についても検討資料としている。

なお、本稿では仲原 2002 で示したように、石庖丁からみえてくる時期区分として、受容期(縄文時代晩期～弥生時代前期中段階)・定着期(弥生時代前期新段階～中期前葉)・盛行期(弥生時代中期中葉～後葉)・衰退期(弥生時代後期)と区分して⁽³⁾、それぞれの概要を記していきたい。

2. 受容期の状況

近畿における受容期の石庖丁は、その総数は非常に少ない。近畿でも最古級の環濠集落である大開遺跡(神戸市兵庫区)では石庖丁は出土しておらず、元々所有していなかった、もしくは非常に少数しか所有していなかったと推察される。一方で、口酒井遺跡(伊丹市)では突帯文土器と共伴して縄文時代晩期の可能性が指摘される石庖丁が2点出土している(結晶片岩製・粘板岩製)。このうち結晶片岩製のものは弥生時代中期以降に近畿で盛行する直線刃半月形であることから、中期以降の所産であるとの意見もある。しかし、幅広の直線刃半月形で、背部に近い箇所に紐孔があり、厚さが薄く丁寧な作りで、弥生時代前期古段階とされる讃良郡条里遺跡(四條畷市・寝屋川市)の粘板岩製石庖丁との形態的共通性がうかがえることから、受容期の石庖丁として捉えられる⁽⁴⁾。上沢遺跡(神戸市長田区)では縄文時代晩期から弥生時代前期の土器を含む遺物包含層から石庖丁が出土しており⁽⁵⁾、受容期の可能性がある。摂津地域以外にも大阪湾岸沿いに当該期の石庖丁が点々と出土している。播磨地域東部の新方遺跡(神戸市西区)では結晶片岩製の石庖丁が出土している。河内地域の讃良郡条里遺跡では近畿の最古級(前期古段階)の石庖丁が出土しているが、流紋岩製・結晶片岩製・粘板岩製が確認されており、いずれも搬入品と考えら

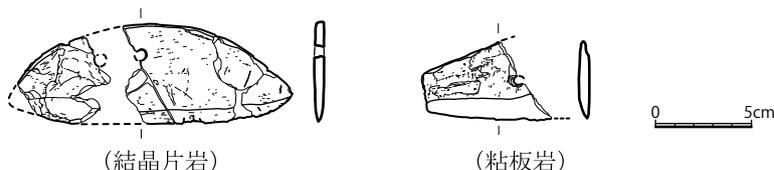


図1 口酒井遺跡出土石庖丁

れる。特に粘板岩製石庖丁は、厚みが2mmと非常に薄く丁寧に作られたもので、口酒井遺跡の結晶片岩製石庖丁との形態に近い。同じく河内地域の池内遺跡（松原市）では前期中段階とみられる石庖丁が出土し、石材は泥質片岩・凝灰岩・頁岩とされている。この他、河内地域の若江北遺跡（東大阪市）では流紋岩製、志紀遺跡（八尾市）では白色系石材製、雁屋遺跡（四條畷市）では流紋岩製・黒色片岩製⁽⁶⁾、田井中遺跡（八尾市）では流紋岩製、木の本遺跡（八尾市）では流紋岩製の石庖丁が出土している。これらの石庖丁については、石材産出地近郊の遺跡ではないため搬入品とみられる。また、様々な石材があることから、これらがどの地域で製作されて持ち込まれたのが課題となる。

瀬戸内地域の状況をみると、下川津遺跡（香川県坂出市）では弥生時代前期前半の石庖丁が出土しているが、外湾刃三角形（安山岩製か）、杏仁形（結晶片岩製）、直線刃半月形（結晶片岩製）の形態が確認できる。龍川五条遺跡（香川県善通寺市）では前期前半の可能性のある安山岩製及び流紋岩製の製作途中品が出土している。また、前期後半と考えられる結晶片岩製や安山岩製、粘板岩製の石庖丁が出土しており、そのうち結晶片岩製の製作途中品が1点含まれる。このように瀬戸内地域には各石材の石庖丁が出土しており、製作途中品も確認できることから、近畿で出土する当該期の石庖丁の多くは瀬戸内地域からの搬入と推察される⁽⁷⁾。口酒井遺跡などの結晶片岩製の石庖丁についても、紀伊地域で当該期の製作が確認されていない以上、瀬戸内地域で製作されたと想定される。

3. 定着期の状況

近畿では本格的に石庖丁の生産が開始される。近畿の二大石材である粘板岩系石材、結晶片岩系石材を用いた石庖丁生産がそれぞれの石材産出地である山城地域の雲宮遺跡（長岡京市）や紀伊地域の溝ノ口遺跡（海南市）などで確認される。二大石材の非産出地域では地元で産出する白色系石材を用いた生産が確認されるようになる。河内地域では亀井遺跡（八尾市）などで安山岩製、大和地域では唐古・鍵遺跡（田原本町）で流紋岩製の製作工程が追える資料が認められる（塚田 1987、仲原 2002）。摂津地域でも塩田石製の製作が始まった可能性がある（上田 2011）。近畿では縄文時代の石製品

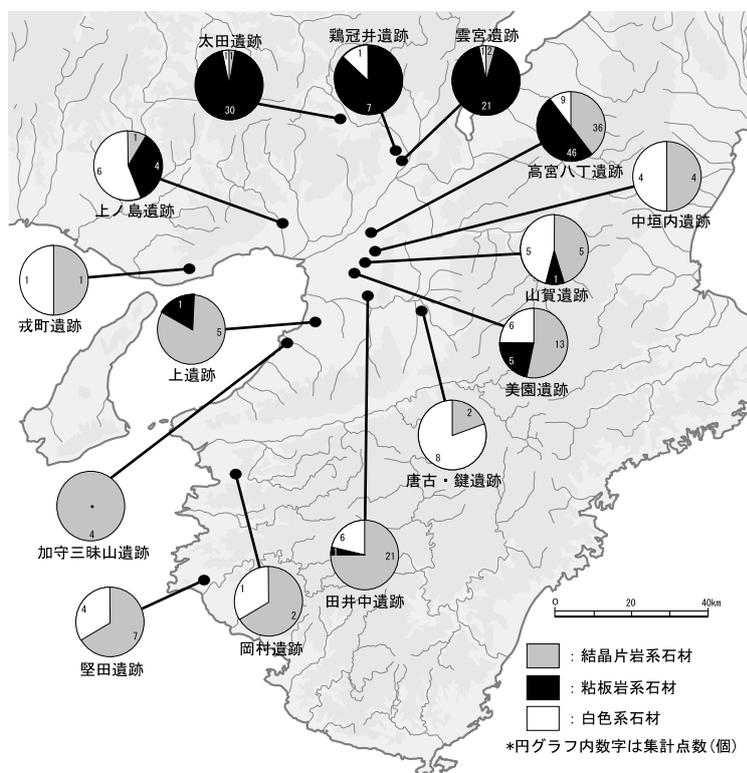


図2 定着期の石庖丁石材比率

には粘板岩系・結晶片岩系石材を利用していたが、弥生時代前期になって集落近郊に産出する流紋岩や安山岩などの白色系石材が新たに利用される石材転換があったとされる（村田 1992a・1992b）。このことは、定着期により多くの石庖丁が必要とされ、自ら石材を獲得して製作しなければいけない状況があったと推定される⁽⁸⁾。

近畿で出土する流紋岩製石庖丁には短身で幅広、杏仁形から外湾刃半月形の形態をとる「大和タイプ」と、長身で幅広、長方形から杏仁形の形態をとる「大阪湾岸タイプ」の二者があり（仲原 2002）、前者は耳成山周辺が産地と考えられる大和地域に分布の中心があることから大和地域産と考えられ、後者は大阪湾岸に点々と分布することから、受容期の流紋岩製石庖丁と同様に瀬戸内地域から搬入されたものと推察する⁽⁹⁾。大阪湾岸タイプは、摂津地域では戎町遺跡（神戸市須磨区）や上ノ島遺跡（尼崎市）で確認できる。定着期の摂津地域には、近畿北部から粘板岩系石材、近畿南部から結晶片岩系石材に加えて、一部は瀬戸内地域から白色系石材が搬入される状況がうかがえる。

4. 盛行期の状況

摂津地域の石庖丁の石材比率を確認すると、定着期同様に粘板岩系と結晶片岩系が一定数認められる一方で、塩田石の産出地である三田盆地では白色系石材である塩田石が多く確認されるようになる（高木 1999）。三輪・餅田遺跡、川除・藤ノ木遺跡（三田市）などでは塩田石製が 80～100%で、わずかに粘板岩系が確認され、基本的に結晶片岩系は認められない。塩田遺跡（神戸市帰宅）でも塩田石が 90%で、粘板岩系がわずかに確認される。

三田盆地より東側の加茂遺跡（川西市）では粘板岩系が 78%、塩田石が 13%、結晶片岩系が 7%で、砂岩も 1 点確認できる。さらに東側の田能遺跡（尼崎市）や東奈良遺跡（茨木市）では粘板岩系が 60～70%、結晶片岩系が 20～30%、白色系が 5～10%となり、白色系には塩田石だけでなく安山岩も含まれる。このように粘板岩系石材産出地に近づくにつれて粘板岩系の比率が増加し、塩田石を含む白色系の比率が減少していく。また、一定数の結晶片岩系が認められるのも特徴的である。三田盆地より南側から西側

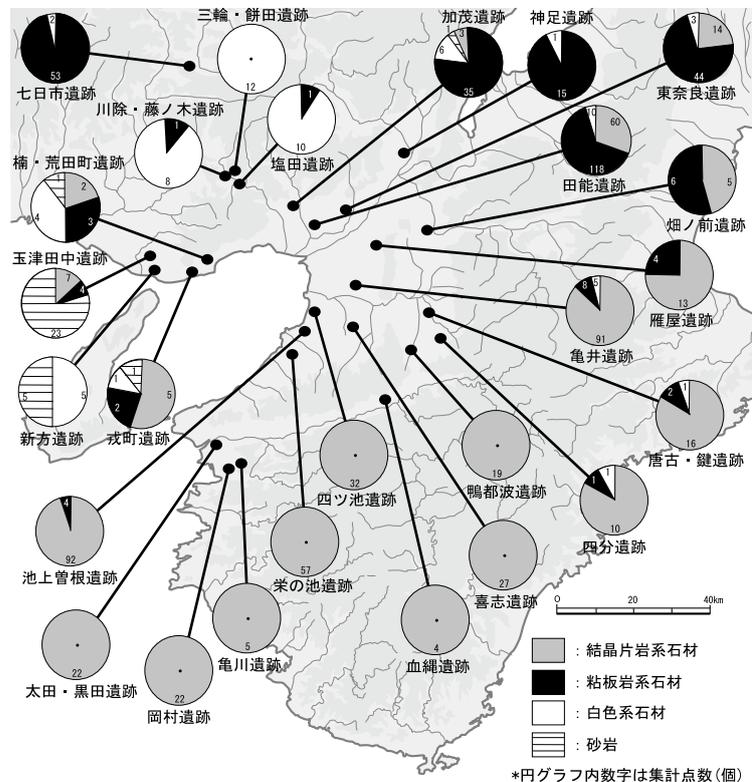


図3 盛行期の石庖丁石材比率

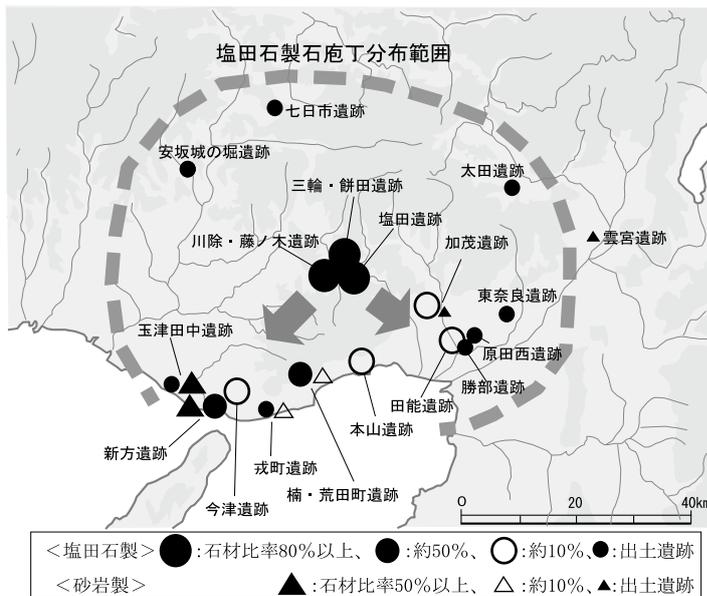


図4 塩田石製・砂岩製石庖丁の分布状況

る。比率が約50%となるのは、摂津地域南西部の桶・荒田町遺跡や播磨地域南東部の新方遺跡などで、比率が約10%程度となるのは、摂津地域東部の加茂遺跡や田能遺跡などで認められる。この他、塩田石製が出土する遺跡はほぼ摂津地域に限られ、一部は播磨地域東部や丹波地域南部に分布するのみである。なお、丹波地域の石材の主体は粘板岩系石材である。砂岩製石庖丁は、生産拠点と考えられる播磨地域の玉津田中遺跡（神戸市西区）を中心に分布し（鈴木1999、藤田2011）、隣接する摂津地域南西部に一部分布するが、塩田石製ほど分布域は広がっていない状況である⁽¹⁰⁾。

5. 衰退期の状況

摂津地域では弥生時代後期前半の高地性集落である古曾部・芝谷遺跡（高槻市）から石庖丁の完成品12点、製作途中品3点が出土している。完成品のうち9点が粘板岩系石材、3点が結晶片岩系石材で、製作途中品は全て粘板岩系石材である。石庖丁には明瞭な使用痕があるとともに、新しく製作するための製作途中品が存在しており、石庖丁を頻繁に使用している段階といえる。高地性集落から石庖丁が出土する例は、和泉地域の観音寺山遺跡（和泉市）でも確認されており、この時期以降には石庖丁が確認できなくなり、近畿における石庖丁の終焉であると考えられる。古曾部・芝谷遺跡では鉄鎌や鉄斧、ヤリガンナ、刀子などの鉄製品が出土しているが、鉄製の収穫具は出土していない。石製品から鉄製品への移行期にあたると考えられるが、鉄製品は器種によって出現の時期差があったと推測され、収穫具は武器・狩猟具や工具に比べて遅れて鉄器化するとみられる。近畿では弥生時代中期中葉～後期にかけて、二大石材産出地以外の地域で木庖丁（木製穂摘具）が多く出土している（山崎2000・2001）。摂津地域でも原田西遺跡（伊丹市）や芝生遺跡（高槻市）、東奈良遺跡（茨木市）で弥生時代後期以降の木庖丁が出土している。木庖丁の出現期である弥生時代中期中葉～後葉において、播磨地域の玉津田中遺跡や河内地域の鬼虎川遺跡（東大阪市）で石庖丁形の木庖丁が出土してお

の神戸市域の桶・荒田町遺跡や戎町遺跡、本山遺跡などでは結晶片岩系、粘板岩系、塩田石、砂岩といった各石材が一定数認められる状況となっている。砂岩や塩田石の方が産出地からの距離が近いが、粘板岩系や結晶片岩系がある程度認められるということは、これらの石材を求めつつもそれらを補完するように塩田石や砂岩を入手していたといえる。

さらに詳しく塩田石製石庖丁の出土傾向を概観してみると、石材比率が80%を超えるのは三田盆地に限られ

り、石材が産出しない地域での石庖丁の代用品の可能性が高い。ただし、二大石材産出地の中で粘板岩系石材が産出する近江地域でも木庖丁が多く出土しており、かつて手鎌木製台（木庖丁・木製穂摘具）について検討した際には、鉄器化が進んだ地域で木庖丁が多く出土すると推察した（仲原 2010）。木庖丁は耐久性には劣るものの、素材の入手や軽量感にも利点があり、また、木庖丁製作時には薄く板状に加工する鉄製工具の使用が有効である。摂津地域においても石庖丁石材が入手しづらい状況が木庖丁を使用する要因となったと考えられるが、それと同時に鉄器化が進んでいる地域であったことが木庖丁の使用を推進する結果となったと想定したい。摂津地域では、弥生時代後期中頃には木庖丁の盛行とともに石庖丁が消滅し、古墳時代に入ると手鎌（鉄製穂摘具・摘鎌）に置き換わっていくことが想定される。

6. まとめにかえて

摂津地域における石庖丁の展開をみてきたが、近畿における石材流通システムの一端が明らかになってきた。摂津地域では、石庖丁製作に適した粘板岩系石材及び結晶片岩系石材が産出しないことから、受容期の段階から常に他地域から石庖丁が搬入されている。しかも、定着期から盛行期にいたるまで、どちらかの石材が排他的ではなく、恒久的に流通している状況がうかがえる。石材比率をみると、産出地からの距離の遠近により比率が変遷しており、石材の流通システムが機能していたといえる。盛行期には塩田石製石庖丁の生産が盛行するが、塩田石製が主体を占めるのは三田盆地に限られ、他地域からの石材に依存している状況が続く。そういう状況の中で、衰退期には摂津地域では木庖丁の採用、鉄製品への移行が進んでいったと想定されるのである。

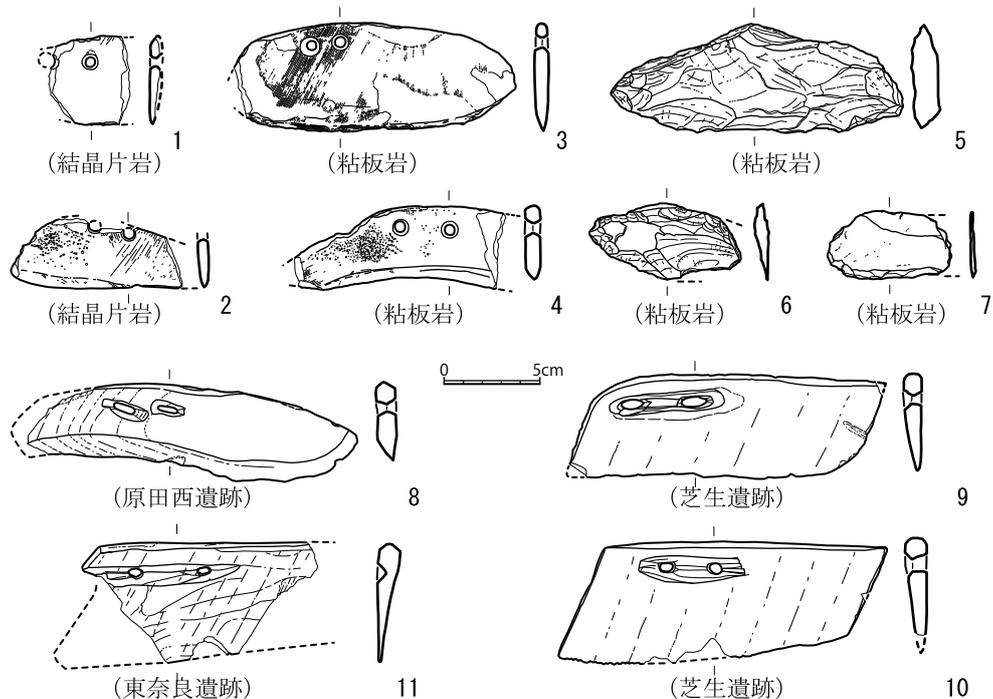


図5 古曾部・芝谷遺跡出土石庖丁及び摂津地域出土木庖丁（木製穂摘具）

表1 石庵丁石材内訳(完成品)

地域	市町村	所在	調査地	*白色系石材(流紋岩、安山岩、堆=麻石、凝灰岩)				計	時期	文献	備考	実見	
				結晶片岩系	結核岩系	白色系石材	砂岩						
丹波	七日市	丹波市春日町			53	2 (流1・凝1)	55	100%		中期～後期中心	兵庫県教委1990	○	
丹波	太田	亀岡市		1	30	1 (流1)	32	100%		前期後～中期前	(財)京都府七1986	○	
山城	雲首	長岡京市	左京407次	2	21	1 (流1)	24	100%		前期	古代学協会2013	○	
			左京17次	8.3%	83.3%	4.1%	1	6	100%		前期末～中期前	長岡京市史編委1991	○
			計	1	28	3 (流1・安1)	1	33	100%		前期～中期前	(財)京都府七1992	報告書より
				3.0%	84.8%	9.1%		3.0%	100%				
山城	神足	長岡京市	右京10次		4				中期	長岡京市史編委1991	○		
			右京274次		2				中期	長岡京市史編委1991	○		
			右京279次		9				中期後主体	長岡京市史編委1991	○		
			右京203次		1	1 (流1)			中期	長岡京市史編委1991	○		
山城	龍泉寺	向日市	左京254次		7	1 (流1)	8	100%		前期後～中期前	向日市史、向日市教委1997	○	
			計	5	6		11	100%					
				45.5%	54.5%			100%					
					1	1 (流1)			100%				
播磨	安佐郡龍野	多可郡多可町			4	23	38	100%	中期～後期	多可町教委2007	○		
播磨	五津田中	神戸市西区	第5分冊	7	4	4 (流1・凝3)	15	100%		中期上層(Ⅲ～Ⅳ)	兵庫県教委1996	報告分、打製多数	
			末報告分	18.4%	10.5%	10.5%	60.5%	100%		中期上層(Ⅲ～Ⅳ)	兵庫県教委1996	報告分以外	
			計	9	4	1 (流1)	14	104	119	100%		兵庫県教委1996	90は高木1999より
				13.4%	6.7%	4.3%	75.6%	100%		中期上層(Ⅲ～Ⅳ)	兵庫県教委1996		
播磨	新方	神戸市西区	第1次		5 (流5)	5	10	100%	中期中		未報告		
播磨	今津	神戸市西区			2 (流3)	3	5	100%	中期中	高木1999	未報告		
摂津	川崎・藤ノ木	三田市	62年度		1	8 (流7・凝1)	9	100%	中期～中期後主体	兵庫県教委1992	未報告分含む		
摂津	府中	三田市			1		1	100%	中期	兵庫県教委1988	未報告		
摂津	三輪・新田	三田市	第1、3次		12 (流12)		12	100%	中期前～中期中主体	高木1999	未報告		
摂津	篠田	神戸市北区	84年度		1	10 (流10)	11	100%	中期前～中期中主体	神戸市教委1987	未報告分含む		
摂津	本山	神戸市東灘区		18	26	18 (流18)		6	100%	中期	高木1999	未報告	
摂津	船・荒田町	神戸市兵庫区	第3次		1	4 (流3・凝2)	1	6	100%	前期末～中期後	神戸市教委1990	未報告	
			第11次	2	3		4	1	10	100%			
			計	20%	30%	40%	10%	100%					
				1	1	1 (流1)		2	100%				
摂津	戎町	神戸市須磨区	第1次	5	2	1 (流1)	1	9	100%	中期中主体	神戸市教委1989	打製1	
摂津	口福井	伊丹市	第8次	55.6%	22.2%	11.1%	11.1%	100%	中期中主体				
摂津	上ノ島	尼崎市		1	4	2 (安2)	7	100%	前期末	伊丹市教委2000	展示品種別		
摂津	田能	尼崎市	6Y地区	9.1%	36.4%	54.5%		16	100%	前期～後期	尼崎市教委1982	実見分	
			6D地区	2	4	2 (凝2)		8	100%	中期～後期中心	尼崎市教委1982	実見分	
			5地区	8	13			21	100%	前期～後期	尼崎市教委1982	実見分	
			3地区	6	6			12	100%	前期～後期	尼崎市教委1982	実見分	
			4N地区	2	3			5	100%	中期～後期中心	尼崎市教委1982	実見分	
			4地区	28	73	5 (流3・安1・流1)		106	100%	中期～後期中心	尼崎市教委1982	実見分	
			1地区	3	3			6	100%	中期～後期中心	尼崎市教委1982	実見分	
			その他	5	8	1 (流1)		14	100%	前期～後期	尼崎市教委1982	実見分	
			計	60	118	10 (流8・安1・流1)		188	100%				
			31.9%	62.8%	5.3%		100%						
摂津	加茂	川西市	第55次		8	1 (流1)		9	100%	中期	川西市教委1982	実見分	
			第81～83、85～91		2			2	4	100%	中期	川西市教委1988	実見分
			第117次	1	16	2 (流2)	1	20	100%	中期	川西市教委1994	実見分、未報告含む	
			第125次	2	6	2 (流2)		10	100%	中期	川西市教委1994	実見分、未報告含む	
			第133次	3	3	1 (流1)		7	100%	中期後	川西市教委1997	実見分	
			計	3	35	6 (流6)	1	45	100%				
6.7%	77.8%	13.3%	2.2%	100%									
摂津	犀川	豊中市		1	2	1 (流1)		3	100%	中期	匿名川遺跡調査1981	報告書より	
摂津	東奈良	茨木市	国鉄1-B区	1	2			3	100%	中期後主体	東奈良遺跡調査1979	未報告	
			国鉄1-B区	2	20	2 (安2)		24	100%	中期主体	東奈良遺跡調査1981	未報告	
			阪急D棟	10	20			31	100%	中期主体	1977年度	未報告	
			計	14	41	3 (流1・安2)		61	100%		1978年度	未報告	
			23.0%	72.1%	4.9%		100%						
1994年度	3	6			9	100%	中期後主体	(財)大阪府文庫研71998	報告書より				
摂津	古吉部・老谷	彦根市		2	3		5	100%	後期前	高槻市教委1996	未報告		
摂津	桑津	大阪府東住吉区	k.w.82-7	1 (黒色片岩)	60.0%		1	2	100%	中期	大阪府文庫研1998	未報告	
河内	藤原	四條畷市		13	4		17	100%	中期後主体	四條畷市教委1994	未報告		
河内	高宮八丁	寝屋川市	第1次	36	46	9 (凝9)		91	100%	前期後～中期前主体	寝屋川市教委1988	実見分	
河内	中塩内	大東市		39.6%	50.5%	4 (凝3・凝1)		8	100%	前期後～中期前	大東市教委1990	未報告	
河内	若江北	東大阪市	第5次	50%		1 (流1)		1	100%	前期	(財)大阪府文庫研71996	展示品種別	
河内	山賀	東大阪市		5	1	5 (安3・凝2)		11	100%	前期	(財)大阪府文庫研71991	未報告	
河内	奥田	八尾市		45.5%	9.1%	45.5%		24	100%	前期	(財)大阪府文庫研71991	未報告	
河内	井筒	八尾市	95-2区	21	1	6 (安5・流1)		28	100%	前期後～中期中	(財)大阪府文庫研71997	未報告	
河内	亀井	八尾市		75.0%	3.6%	21.4%		104	100%	前期～後期	(財)大阪府文庫研71981-1986	実見分	
河内	西大井	藤井寺市		91	8	5 (凝3・流2)		100%	前期～後期	(財)大阪府文庫研71981-1986	実見分		
河内	喜志	富田林市	KS 87-1	12		1 (流1)		13	100%	前期～後期	(財)大阪府文庫研71985	未実見含む	
			計	15				15	100%	中期主体	富田林市教委1988	未報告	
				27			27	100%					
				100%				100%					
和泉	四ツ池	堺市	恵恩池地区	5				5	100%	前期～後期	恵恩池遺跡ほか1977	未報告	
和泉	上	堺市	45地区	27				27	100%	前期～後期	四ツ池遺跡調査1979	未報告	
和泉	池上曾根	和泉市・泉大津市		5	1			6	100%	前期後	大阪府教委1985	報告書より	
和泉	泉の池	岸和田市		92				92	100%	前期後～後期		未報告	
和泉	加守三味山	岸和田市		95.8%	4.2%			57	100%	中期後主体	岸和田遺跡1979	未報告	
和泉	船岡山	岸和田市		57				57	100%	前期～後期		未報告	
和泉	船岡山	岸和田市		4				4	100%	前期	岸和田市1979・1983	展示品種別	
大和	唐古・藤	磯城郡田原本町	第20次	2	1	8 (凝3)		11	100%	編文殿跡?～前期	田原本町教委1985	展示品種別	
			第20次	13		2 (流2)		15	100%	前期	田原本町教委1986	中期遺構出土分	
			第33次	86.7%		13.3%		19	100%	中期主体	田原本町教委1989	写真図説より	
			計	16	2	1 (流1)		19	100%				
大和	四分	橿原市		84.2%	10.5%	5.3%		100%	前期～後期	奈良市教委1980	報告書より		
大和	鴨部	御所市	第11次	19	1	1 (流1)		19	100%	中期後主体	御所市教委1992	未報告	
紀伊	太田黒田	和歌山市	第1次	22				22	100%	中期主体	和歌山市教委1983	未報告	
紀伊	岡村	海南市	OK89C	3				3	100%	前期～後期	海南市文庫研1980	未報告	
			OK90D	4				4	100%	中期後主体	海南市教委1990	未報告	
			OK95A	3				3	100%	中期主体	海南市教委1991	未報告	
			OK96A	2				2	100%	中期後主体	海南市教委1996	未報告	
			OK86	4				4	100%	前期～後期	海南市教委1997	未報告	
			計	24		1 (流1)		25	100%	前期～中期前	海南市教委1998	未報告	
			96%		4%		100%						
紀伊	亀川	海南市	第5次	5				5	100%	前期～後期	海南市文庫研ほか1985	未報告	
紀伊	高橋	橋本市	第7次	4				4	100%	中期主体	橋本市遺跡調査1987	未報告	
紀伊	藍田	御坊市		7		4		11	100%	前期	御坊市教委2002	報告書より	

謝辞

菱田先生には、右も左もわからない学部生の頃から、行者塚古墳や東山古墳群などの発掘調査を通じて、現場で学ぶことの大切さを教えていただき、その後の考古学人生を方向づけていただいた。授業よりも現場へ通うことを許容していただき、学生時代の大半を池上曾根遺跡などの調査に参加することができ、そこで出土する石庖丁を研究対象とすることとなった。本稿は1998年度に京都府立大学大学院に提出した修士論文の一部を再構成したものである。今回扱った資料についても当時資料調査したものが大半である。第2章及び第3章については仲原2002を元に発表した大阪府立弥生文化博物館令和3年度秋季特別展『近畿最初の弥生人』考古学セミナー「石庖丁からみた弥生開始期」とその際におこなわれた禰亙田館長との対談を機会に考えたことをまとめた。修士論文作成時には下記の方々にお世話になった。当時から20年以上も経過しており、これまで公表できなかったことは申し訳ない限りであるが、文末ながら記して深く感謝申し上げたい。

秋山浩三氏、乾哲也氏、池峯龍彦氏、上田健太郎氏、大賀克彦氏、後藤理加氏、小林和美氏、白石耕治氏、菅榮太郎氏、寺前直人氏、虎間麻実氏、長友朋子氏、禰亙田佳男氏、東徹志氏、村田幸子氏、山崎頼人氏、若林邦彦氏

（資料調査時にお世話になった方々 *所属は当時）田能遺跡：橋爪康至氏（尼崎市立田能資料館）、上ノ島遺跡：福井英治氏（尼崎市教育委員会）、塩田遺跡、新方遺跡、楠・荒田町遺跡、戎町遺跡：丸山潔氏（神戸市教育委員会）、玉津田中遺跡、川除・藤ノ木遺跡、七日市遺跡：高木芳史氏（兵庫県教育委員会）、加茂遺跡：祭本敦士氏（川西市教育委員会）、安坂・城の堀遺跡：宮原文隆氏（中町教育委員会）、東奈良遺跡：奥井哲秀氏（茨木市立文化財資料館）、雁屋遺跡：野島稔氏（四條畷市教育委員会）、高宮八丁遺跡：濱田延充氏（寝屋川市教育委員会）、亀井遺跡、山賀遺跡、美園遺跡：赤木克視氏・国乗和雄氏・村上生氏（財）大阪府文化財調査研究センター）、中垣内遺跡：黒田淳氏（大東市教育委員会）、喜志遺跡：粟田薫氏（富田林市教育委員会）、四ツ池遺跡：北野俊明氏（堺市教育委員会）、池上曾根遺跡、軽部遺跡：白石耕治氏・乾哲也氏、栄の池遺跡：近藤利由氏（岸和田市教育委員会）、観音寺山遺跡：辰巳和弘氏（同志社大学）、神足遺跡、雲宮遺跡：岩崎誠氏（財）長岡京市埋蔵文化財センター）、雲宮遺跡：堀内明博氏・桐山秀穂氏（古代学協会）、鶏冠井遺跡：國下多美樹氏（向日市教育委員会）、太田遺跡：松井忠春氏（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）、唐古・鍵遺跡：藤田三郎氏（田原本町教育委員会）、鴨都波遺跡：藤田和尊氏・木許守氏（御所市教育委員会）、太田・黒田遺跡：大野左千夫氏（和歌山市立博物館）、岡村遺跡：植田法彦氏（海南市文化財研究会）、鴨部・川田遺跡：北山健一郎氏（香川県埋蔵文化財センター）

註

- (1) 石庖丁は、機能的に石製穂摘具と呼称されることも多いが、本稿では一般的に広く浸透している石庖丁の用語を使用する。木製穂摘具である木庖丁についても石庖丁に合わせて使用する。また、近畿では播磨地域を除いて出土数が少ないサヌカイト製打製石庖丁は対象とせず、磨製石庖丁のみを対象とする。なお、「庖」が常用漢字外のため、教科書などでは「包」を使用していることが多い。
- (2) 石材については仲原2002で整理したように、厳密な岩石名称ではなく産出地を意識したまとまりとして、近畿の二大石材では三波川変成帯（和歌山県紀ノ川流域～奈良県吉野川流域）に分布する結晶片岩系石材（結晶片岩、緑色片岩、緑泥片岩、塩基性片岩など）、主に丹波帯（淀川以北）に分布する粘板岩系石材（粘板岩、頁岩、ホルンフェルスなど）に区分する。この他、近畿では大和地域の流紋岩や河内地域

の安山岩などの石材が一部利用されているが、これらは二大石材の非産出地域において補完する状況で地元の石材を利用する共通性があることから白色系石材として区分する。また、三田盆地で産出する塩田石（凝灰岩質頁岩）についても白色系石材として扱う。

- (3) 受容期は、石庖丁の出現頻度が低い時期で、石庖丁を受け入れ始めた段階である。定着期は、各集落に石庖丁が普遍的にみられるようになる時期で、石庖丁が必需品となる段階である。盛行期は、石庖丁の生産・消費が活発となる時期で、安定した生産・流通システムが確立した段階である。衰退期は、集落によっては石庖丁がみられなくなる時期で、石庖丁以外の収穫具（木製や鉄製の穂摘具）に置き換わっていく段階である。
- (4) 近畿において、突帯文土器と遠賀川式土器の共伴関係については議論が進められているが、突帯文土器を使用する集団と遠賀川式土器を使用する集団が同時期に近接して存在していたと指摘されており（秋山 1999）、口酒井遺跡の石庖丁についても、時代的には縄文時代晩期というより、弥生時代前期の所産の可能性はある。
- (5) 石材については塩田石に類似すると報告されている（神戸市教委 1995）。
- (6) 上田氏は輝石安山岩製とする（上田 2005）。
- (7) 近畿で出土するサヌカイトは、縄文時代には二上山産（大阪府・奈良県境）がほとんどであったが、弥生時代開始期（本稿の受容期）には金山産（香川県）が大半を占めるようになり、前期新段階（本稿の定着期）以降に金山産が減少し、中期以降は再び二上山産が主体を占めるようになる（秋山 1999・2023、禰亘田 2021）。近畿の弥生時代開始期の金山産サヌカイトの流入状況と同様に、受容期の石庖丁においても瀬戸内地域からの流入を想定したい。
- (8) また、白色系石材の選択は、東北部九州で出土する層灰岩製石庖丁につながる視覚的な選択であったと想定されている（上田 2005）。
- (9) 瀬戸内地域の鴨部・川田遺跡では、同時期の流紋岩製の製作途中品が多量に出土しており（信里 2021、香川県埋文研 1997）、流入元の候補地となる。
- (10) 摂津地域の楠・荒田町遺跡、戎ノ町遺跡、加茂遺跡、桑津遺跡（大阪市）、山城地域の雲宮遺跡（長岡京市）で砂岩製石庖丁が確認されている。

引用・参考文献

- 秋山浩三 1999 「近畿における弥生化の具体相」『論争吉備』考古学研究会岡山例会委員会編
- 秋山浩三 2003 「弥生時代・畿内石庖丁の生産と流通—近畿における石庖丁生産・流通の再検討（Ⅳ）—」『道具の生産流通と地域関係の形成～縄文から弥生まで～（古代学協会中四国合同大会研究発表要旨）』
- 秋山浩三 2023 「四国から近畿へ—サヌカイト流通と弥生開始をめぐって—」『季刊考古学・別冊 41 四国考古学の最前線』雄山閣
- 秋山浩三・仲原知之 1998・1999 「近畿における石庖丁生産・流通の再検討（Ⅰ）—池上曾根遺跡の石庖丁製作工程—（上）・（下）」『大阪文化財研究』第 15 号・第 17 号（財）大阪府文化財調査研究センター
- 有本昭子・有本雅己 2006 「耳成山採集の石庖丁関連資料について」『みずほ』40 大和弥生文化の会
- 伊丹市教育委員会 2000 『口酒井遺跡—第 1 次～第 10 次・第 12 次～第 16 次調査の概要—』六甲山麓遺跡調査会・伊丹市文化財調査団編
- 上田健太郎 2005 「近畿地方における直線刃半月形石庖丁の成立」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退任記念—』大阪大学考古学研究室編

- 上田健太郎 2011 「播磨の弥生時代石器」『石器からみた弥生時代の播磨』第 11 回播磨考古学研究集会実行委員会
- 大阪府教育委員会 2004 『木の本遺跡』
- (財)大阪府文化財センター 2009 『讃良郡条里遺跡Ⅷ—一般国道 1 号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- (財)大阪府文化財センター 2010 『池内遺跡—都市計画道路大和川線外建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- (財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『志紀遺跡（その 4）—大阪府営志紀住宅建替え事業に伴う発掘調査報告書—』
- 大阪府立弥生文化博物館 2012 『令和 3 年度秋季特別展 近畿最初の弥生人』（大阪府立弥生文化博物館図録）
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二十三冊 龍川五条遺跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団 1998 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二十九冊 龍川五条遺跡Ⅱ・飯野東分山崎南遺跡』
- 香川県埋蔵文化財研究会 1997 『鴨部・川田遺跡Ⅰ—高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 7 冊』
- 合田茂伸 1993 「近畿地方出土の石庖丁について」『関西大学考古学研究室開設四拾周年記念考古学論叢』
- 神戸市教育委員会 1993 『大開遺跡発掘調査報告書』
- 神戸市教育委員会 1995 『上沢遺跡発掘調査報告書』
- 酒井龍一 1974 「石庖丁の生産と消費をめぐる二つのモデル」『考古学研究』21-2 考古学研究会
- 櫻井拓馬 2006 「奈良盆地における流紋岩製石包丁製作工程について」『みずほ』40 大和弥生文化の会
- 櫻井拓馬 2013 「弥生時代開始期における石包丁製作技法の地域性—穿孔技法の分析を中心として—」『立命館大学考古学論集Ⅵ』立命館大学考古学論集刊行会
- 篠宮 正 1997 「玉津田中遺跡出土穂摘具の復原」『塵界』第 9 号 兵庫県立歴史博物館
- 菅榮太郎 1992 「弥生時代の石器生産と流通—讃岐平野における一様相と近畿地域との関連性—」『同志社大学考古学シリーズⅤ 考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会
- 菅榮太郎 2011 「大阪湾岸における弥生時代の石器生産と流通」『石器からみた弥生時代の播磨』第 11 回播磨考古学研究集会実行委員会
- 鈴木啓二 1999 「穂摘具の多様性と石材の流通—兵庫県玉津田中遺跡におけるケーススタディー—」『国家形成期の考古学 阪大考古学研究室 10 周年記念論文集』大阪大学考古学研究室
- 田井中（井上）洋介 1994 「県内出土の石包丁をめぐる」『紀要』2 滋賀県立安土城考古博物館
- 田井中洋介 1995 「県内出土の石包丁をめぐる（その 2）」『紀要』3 滋賀県立安土城考古博物館
- 高槻市教育委員会 1996 『古曾部・芝谷遺跡 高地性集落の調査』
- 高木芳史 1999 「畿内地方の石庖丁の生産と流通」『国家形成期の考古学 阪大考古学研究室 10 周年記念論文集』大阪大学考古学研究室
- 塚田良道 1987 「耳成山産流紋岩製石庖丁について」『同志社大学考古学シリーズⅢ 考古学と地域文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会
- 塚田良道 2006 「流紋岩製石包丁再考」『みずほ』40 大和弥生文化の会
- 土屋みづほ 2004 「弥生時代における石器生産と流通の変遷過程—東北部九州を中心として—」『考古学研究』

- 都出比呂志 1979 「ムラとムラとの交流」『図説日本文化の歴史 1 先史・原始』小学館
- 寺前直人 2001 「流通論／磨製石庖丁の交易」『シンポジウム「銅鐸から描く弥生社会」予稿集』一宮市博物館
- 寺前直人 2006 「生産と流通からみた畿内弥生社会」『考古学研究会例会シンポジウム記録五 畿内弥生社会像の再検討』考古学研究会
- 同志社大学歴史資料館 1999 『観音寺山遺跡発掘調査報告書』
- 仲原知之 2000 「和泉地域の石庖丁生産と流通－近畿における石庖丁生産・流通の再検討（Ⅱ）－」『洛北史学』第2号 洛北史学会
- 仲原知之 2002 「弥生前期の石庖丁生産と流通－近畿における石庖丁生産・流通の再検討（Ⅲ）－」『紀伊考古学研究』第5号 紀伊考古学研究会
- 仲原知之 2006 「和歌山県の石庖丁（その1）・岡村遺跡－近畿における石庖丁生産・流通の再検討（Ⅴ）－」『喜谷美宣先生古希記念論集』喜谷美宣先生古希記念論集刊行会
- 仲原知之 2010 「和歌山県の手鎌木製台（木庖丁）の検討」『紀伊考古学研究』第13号 紀伊考古学研究会
- 仲原知之 2015 「和歌山県の石庖丁（2）・紀南地域の検討－近畿における石庖丁生産・流通の再検討（Ⅵ）－」『みずほ別冊2 弥生研究の交差点－池田保信さん還暦記念－』大和弥生文化の会
- 中村 豊 2012 『弥生時代における結晶片岩製石器生産・流通史の復原に関する研究（20720206）』
- 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録 近畿原始篇』（上原真人編）
- 西口陽一 1986 「人・硯・石剣」『考古学研究』32-4 考古学研究会
- 禰宜田佳男 1996 「手工業と流通」『弥生の環濠都市と巨大神殿』池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会
- 禰宜田佳男 1998 「石器から鉄器へ」『古代国家はこうして生まれた』角川書店
- 禰宜田佳男 2011 「石器から見た兵庫県東南部の弥生集落－三田盆地の遺跡を中心として－」『石器からみた弥生時代の播磨』第11回播磨考古学研究集会実行委員会
- 禰宜田佳男 2014 「弥生時代石器研究の現状と課題－九州北部と近畿を比較しながら－」『東アジア古文化論攷2』中国書店
- 禰宜田佳男 2021 「水田稲作受容期の弥生遺跡をめぐって」『令和3年度秋季特別展 近畿最初の弥生人』大阪府立弥生文化博物館
- 禰宜田佳男 2023 「兵庫県東南部における弥生時代中期サヌカイトの供給状況」『菟原Ⅲ－森岡秀人さん古稀記念論集－』森岡秀人さん古稀記念会
- 禰宜田佳男 2024 「生駒山西麓産土器と二上山産サヌカイト」『令和6年度夏季特別展 土器研究の可能性－新たな分析と弥生社会－』大阪府立弥生文化博物館
- 信里芳紀 2021 「農耕社会のはじまりと遠賀川式土器－四国島を中心に－」『令和3年度秋季特別展 近畿最初の弥生人』大阪府立弥生文化博物館
- 濱野俊一 2002 「三島地域における石庖丁生産と流通－大阪府茨木市目垣遺跡における石庖丁生産問題からの二、三の提起－」『古代学研究』159 古代学研究会
- 藤田 淳 2011 「玉津田中遺跡における出土石器の生産と流通」『石器からみた弥生時代の播磨』第11回播磨考古学研究集会実行委員会
- 豆谷和之 2006 「流紋岩製石包丁をめぐる諸問題」『みずほ』40 大和弥生文化の会
- 村田幸子 1992a 「畿内における石庖丁未製品の分析」『大阪文化財研究』3（財）大阪文化財センター

- 村田幸子 1992b 「石材の伝播について－河内平野を中心に－」『河内平野遺跡群の動態』V（財）大阪文化財センター・大阪府教育委員会
- 村田祐一 1999 「北部九州地域の石庖丁をめぐる－立岩石庖丁製作技法の検討－」『山口大学文学会志』49
- 山崎頼人 2000・2001 「木製穂摘具の研究－木製穂摘具における二者－（上）・（下）」『大阪文化財研究』19・20（財）大阪府文化財調査研究センター

図表出典

- 図1 伊丹市教委 2000 より再トレース（デジタルトレース）
- 図2・3・4 表1をもとに仲原作成
- 図5 高槻市教委 1996 及び奈文研 1993 より再トレース（デジタルトレース）

表1 関連報告書類

<大阪府> 泉佐野市教育委員会 1985 『船岡山遺跡 B 地点発掘調査報告書 84-3 区の調査』、猪名川流域原田下水処理場遺跡調査団 1981 『原田西遺跡（大阪府域）－猪名川流域原田下水処理場拡張工事に伴う調査報告－』、恵瑞池遺跡調査会・堺市教育委員会 1977 『四ツ池遺跡－恵瑞池・浜寺中学校増築用地－』、（財）大阪市文化財協会 1998 『桑津遺跡発掘調査報告書』、大阪府教育委員会 1985 『上遺跡発掘調査概要』、大阪府教育委員会 1999 『田井中遺跡発掘調査概要Ⅷ』、（財）大阪文化財センター 1984 『亀井遺跡Ⅱ－寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅲ－』、（財）大阪文化財センター 1986 『亀井（その2）－近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書－』、（財）大阪文化財センター・大阪府教育委員会 1991 『河内平野遺跡群の動態Ⅱ－近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（山賀遺跡・美園遺跡）、（財）大阪府文化財調査研究センター 1995 『西大井遺跡－大和川下流東部流域下水道事業大井処理場建設に伴う発掘調査報告書－』、（財）大阪府文化財調査研究センター 1996 『巨摩・若江北遺跡発掘調査報告－第5次－都市計画道路大阪中央環状線巨摩橋交差点南行車線跨道橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』、（財）大阪府文化財調査研究センター 1997 『田井中遺跡（1～3次）・志紀遺跡（防1次）－陸上自衛隊八尾駐屯地内施設建設事業に伴う発掘調査報告書－』、（財）大阪府文化財調査研究センター 1998 『東奈良遺跡－茨木市東奈良1丁目府営茨木東奈良住宅建替に伴う発掘調査報告書（1994年度）－』、岸和田市 1979 『岸和田市史』第1巻（加守三昧山遺跡）、岸和田遺跡調査会 1979 『栄の池遺跡』、岸和田市教育委員会 1983 『岸和田の文化財 写真集Ⅵ（市内出土石器）』（加守三昧山遺跡）、四條畷市教育委員会 1984 『雁屋遺跡発掘調査概要Ⅰ』、四條畷市教育委員会 1994 『府立四條畷保健所改築工事に伴う雁屋遺跡発掘調査概要』、大東市教育委員会 1990 『中垣内遺跡発掘調査報告書－関西電力株式会社東大阪変電所内所在－』、高槻市教育委員会 1996 『古曾部・芝谷遺跡 高地性集落遺跡の調査』、豊中市教育委員会 1972 『勝部遺跡』、富田林市教育委員会 1988 『喜志遺跡発掘調査概要Ⅱ』、富田林市教育委員会 1997 『平成8年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書』（喜志遺跡）、寝屋川市教育委員会 1988 『高宮八丁遺跡 石器編』、東奈良遺跡調査会 1979 『東奈良発掘調査概報Ⅰ』、東奈良遺跡調査会 1981 『東奈良発掘調査概報Ⅱ』、四ツ池遺跡調査会 1979 『四ツ池遺跡－第45地区発掘調査中間報告－その4』

<兵庫県> 尼崎市教育委員会 1973 『尼崎市上ノ島遺跡』、尼崎市教育委員会 1982 『田能遺跡発掘調査報告書』、伊丹市教育委員会 2000 『口酒井遺跡－第1次～第10次・第12次～第16次調査の概要－』（六甲山麓遺跡調査会・伊丹市文化財調査団編）、川西市教育委員会 1982 『川西市加茂遺跡－市道11号線建設にともなう発掘調査報告－』（第55次）、川西市教育委員会 1988 『川西市加茂遺跡－第81～83・85～91次発掘調

査報告一』、川西市教育委員会 1994 『川西市加茂遺跡一第 117 次・125 次発掘調査概要一』、川西市教育委員会 1997 『平成 8 年度川西市発掘調査概要報告一阪神・淡路大震災復旧・復興に伴う発掘調査一』（加茂遺跡第 153・157 次）、神戸市教育委員会 1987 『塩田遺跡』『昭和 59 年度神戸市埋蔵文化財年報』、神戸市教育委員会 1989 『戎町遺跡第 1 次発掘調査概要報告』、神戸市教育委員会 1990 『楠・荒田町遺跡Ⅲ』、神戸市教育委員会 2003 『新方遺跡一野手・西方地区発掘調査報告書 1』、多可町教育委員会 2007 『安坂・城の堀遺跡Ⅳ 茂利・大將軍遺跡』、兵庫県教育委員会 1988 『対中』、兵庫県教育委員会 1990 『春日・七日市遺跡（Ⅰ）2 分冊一近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（XⅡ-2）』、兵庫県教育委員会 1992 『川除・藤ノ木遺跡一武庫川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』、兵庫県教育委員会 1992 『上ノ島遺跡一県公営住宅尼崎立花第 1 団地改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書一』、兵庫県教育委員会 1996 『玉津田中遺跡一第 5 分冊一田中特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書一』

<奈良県> 御所市教育委員会 1992 『鴨都波 11 次発掘調査報告』、田原本町教育委員会 1984 『昭和 58 年度唐古・鍵遺跡第 16 次発掘調査概報』、田原本町教育委員会 1986 『昭和 59 年度唐古・鍵遺跡第 20 次発掘調査概報』、田原本町教育委員会 1989 『昭和 62・63 年度唐古・鍵遺跡第 32・33 次発掘調査概報』、奈良国立文化財研究所 1980 『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ一藤原宮西辺地区・内裏東外郭の調査一』（四分遺跡）

<京都府> （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1986 『京都府遺跡調査報告書 6 太田遺跡』、（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997 『京都府遺跡調査報告書 22 雲宮遺跡』、長岡京市史編さん委員会編 1991 『長岡京市史 資料編 1』（雲宮遺跡、神足遺跡）、（財）古代学協会 1987 『(仮称) 精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書』（畑ノ前遺跡）、（公財）古代学協会 2013 『雲宮遺跡・長岡京左京六条二坊跡発掘調査報告書』、（財）向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会 1997 『向日市埋蔵文化財調査報告書 45 鶏冠井遺跡』

<和歌山県> 海南市教育委員会 1990 『亀川遺跡ほか発掘調査概報』（岡村遺跡）、海南市教育委員会 1991 『海南市内遺跡発掘調査概報』（岡村遺跡）、海南市教育委員会 1996 『海南市内遺跡発掘調査概報平成 7 年度』（岡村遺跡）、海南市教育委員会 1997 『海南市内遺跡発掘調査概報平成 8 年度』（岡村遺跡）、海南市教育委員会 1998 『海南市内遺跡発掘調査概報平成 9 年度』（岡村遺跡）、海南市文化財調査研究会 1980 『岡村遺跡確認調査概報』、海南市文化財調査研究会・海南市教育委員会 1985 『亀川遺跡Ⅴ』、御坊市教育委員会・御坊市文化財調査会 2002 『堅田遺跡 弥生時代前期集落の調査』、橋本市遺跡調査会 1997 『平成 7・8 年度血縄遺跡第 7 次発掘調査概報』、和歌山市教育委員会 1983 『太田黒田遺跡（図版編）』